

# TAMAサイト

## 多摩支部授業研究会(常任委員授業)

10月18日(水)に宿河原小学校で多摩支部授業研究会が行われました。子供たちが夢中になって運動に取り組む姿・点を取ることで運動の楽しさを味わう姿が見られました。授業の準備をくださった宿河原小学校の職員の皆さん、お忙しい中参観された皆さん、ありがとうございました。

授業後の研究協議では、活発な意見交換がなされ、研究を深めることになりました。そして、講師の西田寛先生からは、授業をする上での貴重な助言をいただくことができました。

以下、多くのご意見、ご感想をいただいた中で、主だったものをいくつか紹介します。

## 研究協議 ○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答・授業者より

### 《4年生 ボール運動「ティーボール」》永井 正人 先生

#### 【子供の様子について】

○どの子も得点をとることができていた。夢中になってティーボールを楽しんでいた。

☆守備では、ゴロを捕球してベースに投げるアウトがあまり見られなかった。投げるということのハードルが高かったのではないかと。

→ベースの後ろにネットを置いたり、アウトゾーンを広くしたりする工夫があってもよかったのでは。

○「ボールを投げた方が早いよ。」という先生の声かけの直後に理想的なアウトを取れていた。

◎ボールを手に当てただけでアウトにするルールも検討したが、取りやすい球を投げる、捕球が上手な子がベースに入るなどの工夫が見られたので、キャッチの簡易化はせず、点を取る方に集中させた。

#### 【学習の道すじ・本時の流れについて】

☆作戦という概念をどのように捉えていたか。

◎3時間目までは個人のめあてで動いていた。リーグ戦から、「チームで大切にしたいこと」を作戦とした

☆ティータイムは作戦を考える時間でもティーバッティング練習でもいいという扱だったが、練習しているチームが多かった。今までの授業の経緯やなぜ3分にしたのか。

◎はじめは練習が多かったが、3・4時間目から話し合いが増えた。後半は作戦の話がメインになっていた。活動時間とのバランスを考えていくと、3分間という時間になった。授業時間以外も話し合いをしているので、作戦確認タイムという形になっていった。

#### 【場・用具について】

☆ラケットの立て打ちについて、上手に打っていた子が多かった。各コートによって広さが少しちがった。ボールが壁に跳ね返るなどで得点に関わるので、子供の抵抗感はなかったのか。ホームランのルールを設けてもよかったのでは。

◎立て打ちはOKにした。コートはローテーション。そこに対する不満はなかった。越えたらホームランにした。

#### 【トラペゾイドティーボールについて】

☆作戦について考える楽しさや工夫する楽しさは守備にもあったのではないかと。1時間目から単元の最後まで、どこを楽しみに掲げていたのか？

◎どちらも楽しめる要素はあるが、中学年では守備もそこまで指導要領に記載されているわけではない。得点を取る楽しさに主眼を置いた。トラペゾイドの守備を楽しむ実感が、高学年の連携に繋がっていくと考える。

○中学年にトスは入っていないが、規則として導入しているにもかかわらず指導をしていないのはどうか。

☆ラケットだと、トスの方が打ちやすい。ラケットだと、ティーは選択しないので難易度が逆転しているのではないかと。

☆思考を大切にしているが、指導案上の「思考」の評価は「課題解決のために友達に伝える」というところがカット

されていた。規則を工夫することが作戦になるので、「規則の工夫」「課題解決のために友達に伝える」に重点を置いてもよかったのでは？

◎難易度が逆転している現状はある。高学年ではバットのみで行っていた。中学年に合った難易度を考えたい。思考で3つとるのは難しい。作戦は授業の流れで生まれてくると考えていたので評価から抜きはしなかった。

## 指導講評

講師:西田 寛 先生(川崎市立上丸子小学校 校長)

### 【子供の様子について】

- 子供たちの「打つ」技能が高かった。1時間目に確保したティータイムがとても効果があったのではないかな。この時間にどれくらいの練習ができていたのか検証していきたい。
- ティータイムの扱いを子供に任せるのではなく、子供の何を伸ばしたいか(基本の打つ、捕る、投げる)によって、その練習機会はしっかり確保してあげたい。
- 基本技能は効果的に向上させたい。  
例)ドリルゲーム、タスクゲーム:練習技能を高める練習を導入してもよい。  
連続壁当て :素早くボールの前に入る練習。  
お手玉投げ :投げられない子が、どこまで投げられたのか記録が見える。  
バックネットなどを使って、打つ・投げるなどの練習も有効的。  
→ティータイムの3分間で使える活動例を先生がもっているとよい。

### 【トラペゾイドティーボールについて】

- トラペゾイドティーボールの安全面が気になる。守備が踏むベースと攻撃が踏むベースを分けたい。
- 守備では2塁が遠いので、3塁に行ってしまう子が多かった。2、3塁間が一番長い。3塁、ホーム間を一番長くすれば、投げる子が増えたかもしれない。  
→ゲームの様相が少し変わるだけで、子供の思考は変わる。だから、はじめのルールがとても大切になる。
- 子供の実態によって倍の考えが難しい場合、得点表を作って誰でも理解しやすくする。中学年なので、ひと目で分かるものがあるといい。

### 【規則の工夫について】

- 子供達、全員が理解できる規則の工夫が子供の楽しさにつながる。守備でも点数がとれる規則の工夫があるとよい。
- 中学年は技能的に、ボールの正面に入れればよい。ベースに入った子が触ればアウトのルールにすれば、ゲームの様相も変わったのでは？
- ベースに投げる必然性がある規則がほしい。
- 「守るときにベースに入る人が必要」とふり返りをしていた児童がいた。高学年に繋がっている。

### 【作戦について】

- 『作戦』とは単元の半ばで、繰り返し出てくるゲームの様相。子供が見つけられるので、子供にとって必然性が生まれる。
- ベースボール型は残塁なしだと攻撃の作戦は固くなる。友達と連動する守備にこそ作戦が生まれやすい。

### 【めあて学習について】

- 子供のふりかえりの様子を見て、子供が何に目を向けているのか(打つ、守る、など)を見取っていくことが大切。チームとしての意識をもったのはいつからなのか、と記録していくのが今後の研究につながる。
- ベースボール型は個人のめあてになりやすいので、チームのめあてに目が向くような活動や場を考えたい。

担当:山田 遼(稲田小) 文責:院田 健司(中野島小)